

## 【日本側コーディネーター及び拠点機関名】

日本側拠点機関名	長崎大学
日本側コーディネーター所属・氏名	水産・環境科学総合研究科・萩原篤志
研究交流課題名	ビクトリア湖の環境保全と水産業振興のための集学的アプローチ
相手国及び拠点機関名	ケニア 国立ケニア海洋・水産研究所

### 研究交流計画の目標・概要

#### 【研究交流目標】

ビクトリア湖はケニア、タンザニア、ウガンダに囲まれたアフリカ最大の湖で、豊かな水資源と水産資源を湖岸のコミュニティに提供している。この湖では沿岸の開発によって水圏環境の悪化が進み、湖の生物生産に悪影響を与えている。さらに1970年代以降のナイルパーチなどの外来種の移植とこれらを対象とする漁業の活発化が湖の生態系全体に悪影響を及ぼしている。これらの問題は明確かつ重要であるため、これまで多くの国々の大学・研究機関が解決への取り組みを行なっているが、生態系および環境の保全・修復から生態系の持続的な利用、そして湖岸コミュニティの生活水準の向上までをビクトリア湖の持続的な利用として包括的に捉えた例は見当たらない。

そこで本事業は、ビクトリア湖における水産・環境研究をリードしている国立ケニア海洋・水産研究所(KMFRI)をケニアの中核的な拠点機関として選定し、若手の研究者を中心に緊密な連携体制をつくりながら、ビクトリア湖における生態系・環境保全に加えて、持続的な漁業・養殖業の基盤となる学術的な共同研究や各種基盤技術の開発・導入を進める。そしてこれらの取り組みを通じて、ケニアの水産研究をこれから担うことのできる高度の知識・技術を有する若手の研究者の育成に取り組む。

ケニア側との事前協議において、ビクトリア湖の生態系と環境の保全と漁業・養殖業の改善について、導入可能な新たな技術が望まれていることを確認しており、それを踏まえて本事業では下記の事項に重点を置いてKMFRIとの共同研究を推進し、ビクトリア湖の生態系・環境保全と漁業・養殖業の持続的展開に関する学術基盤を形成する。

- (1) 持続的な漁業・養殖業展開の基盤となるビクトリア湖の生態系と環境の保全・修復技術の研究
- (2) 生物資源利用の持続性確保のための漁業技術の改善および新規技術の導入
- (3) 養殖技術の高度化とその基盤となる生物学的技法の確立
- (4) 水産食品の高付加価値化のための研究開発

#### 【研究交流計画の概要】

##### ①共同研究

上記の4つの事項を中心として、本事業の主な参加者とそのカウンターパートとなるKMFRI研究者との共同研究に取り組む。(1)については、ビクトリア湖の環境問題を取り上げ、水域環境・生態系の現状診断・解析とそれを踏まえた改善計画の策定を行う。(2)については、(1)で得られた知見を利用しながら、水産資源に過剰な漁獲圧力をかけることが少ない日本型の定置網漁法の導入を検討する。(3)についてはビクトリア湖の水産業の中心種でありながら養殖技術が確立されていない、ナイルパーチなどの種苗生産技術の開発とこの基盤となる生物学的な基礎研究に取り組む。(4)についてはビクトリア湖で生産される水産物がより高い価値を持つよう、水産物流通における衛生学研究を行うとともに我が国で培われた加工技術の導入をはかる。

##### ②セミナー

25年度は上記の共同研究の推進に重点を置き、26年度にその成果も踏まえながら、ケニアにおいてセミナー(第1回)を開催し、今後の研究戦略について討議する。その結果は26-27年度のケニア現地における共同研究に活かす。27年度には研究成果の総合的な取りまとめと今後の研究展開の方向について討議するためのセミナー(第2回)をケニアで開催する。

##### ③研究者交流

上記の共同研究・セミナーを通して、若手研究者間の交流を促進し、将来に向けてケニアの水産研究を主体的かつ自立的に担うことのできる人材を育成する。

[実施体制概念図]

